生涯学習研究（宮崎大学生涯学習教育センター研究紀要）第12号，2007

原　著

高齢者の居場所づくりについての一考察
―「ふれあいサロン」の活動に即して―

上條秀元

要旨

本研究は、地域における高齢者の居場所づくりの意義を明らかにした上で、「ふれあいサロン」の現状の一端を調査・分析し、その課題を明確にしようとするものである。

まず、高齢者の居場所づくりを、多くの勤労者が定年退職を迎える 60 代前半、心身の衰えが進む 60 代後半以降、認知症の進行など、心身の衰えがさらに進む時期の 3 つの段階に整理し、「ふれあいサロン」をその第 2 の段階に当たると位置づけた。

次いで、2 市町の「ふれあいサロン」の運営スタッフに対して行ったアンケート調査の結果を分析した。その中で、企画・運営を担当する運営スタッフの役割が大きいこと、活動内容については、気軽に楽しく参加できる活動が重視されていること、健康の維持・増進に関する活動が多くのサロンで行われていることなどが浮き彫りになった。また、生涯学習との関連では、「活動の中で、活動を通じて学ぶ」営みが広く行われていること等が明らかになった。

One Consideration to the making of 'The Place to Stay' for the Senior Citizen
― In Relation with Activities of 'Salon for Contact' ―

Hidemoto KAMIJO

Abstract:

In this study, I first consider the significance of making 'The Place to Stay' for senior citizens in their living area. I classify the places in three stages and places 'Salon for Contact' as the second stage.

Secondly, I analyze the result of the survey for the administrative staffs of 'Salon for Contact' in two local areas, one city and one town. It has become obvious that such activities as will reinforce people to participate willingly and happily are made much of, and that workings to 'learn in and through activities' are performed in many Salons.

Key Words: senior citizen, The Place to Stay, Salon for Contact

1　高齢者の居場所づくりの意義

長寿社会を迎え、高齢者が地域の中で生きがいをもって暮らすとともに、地域活動やボランティア活動等への参加を促進するために、社会的な支援や環境整備を図ることが求められている。このため、地域の中の身近な所に高齢者の心の拠り所となるような「居場所」をつくることが効果的な支援策の一つと思われる[1),2)]。

※　ここで、地域の居場所とは「地域の中の身近な場所にあって、人々が気軽に参加でき、そこに参加することが本人に安心感や幸福感

をもたらし、心の拠り所となるような場や機会」と定義する。

地域における高齢者の居場所づくりは、大きく分けると３つの段階があると思われる。

第１の段階は、多くの勤労者が定年退職を迎える時期に当たる、60 代前半の人々にとっての居場所である。この段階に対応して、主として次のような役割が求められよう。

① 人々が気軽に参加できる場や機会としての役割

特に、「会社人間」として一途に生きてきた人ほど、定年退職後に地域社会との関わりをもつことに抵抗があると言われている。そういう人々が気軽に足を運ぶことのできる場や機会としての役割である。

② 「自分」を肯定的にとらえ直すための場や機会としての役割

人々との交流の中で、社会における「自分」の位置や役割を再認識し、自分を肯定的にとらえ直すことが可能となる。

③ 地域との関わりを広げるきっかけとなる「プラットホーム」としての役割

活動を通じて地域社会と関わる中で、さらに地域との関わりを広げるきっかけとなる「プラットホーム」としての役割が期待できる。

第２の段階は、健康・体力に衰えが進むおおむね60代後半から80代前半の人々にとっての居場所である。この場合、主として次のような役割が求められよう。

① 出不精になりがちな中で、気軽に参加できる場としての役割

60 代後半から 70 代にかけて、健康・体力に衰えを感じるようになると、ついつい出不精になる。しかし、家への閉じこもりは老化を早め、認知症を誘発するとも言われている。このような段階に対応して、気軽に参加できる場としての役割である。

② 「自分」を肯定的にとらえ直すための場や機会としての役割

前述（第１段階②）と同様である。

③ 地域との関わりを広げるきっかけとなる「プラットホーム」としての役割

前述（第１段階③）と同様である。

④ 健康の維持、認知症の予防等の役割

上述の中で、①～③は第１の段階と共通するものがある。この時期における居場所の重要な機能として、この役割が位置づけられよう。

第3の段階は、認知症の進行など、心身の衰えがさらに進むことにより、地域活動への参加が困難となった人々の居場所である。「宅老所」、グループホームなどがこの機能を担っている。この段階においては、一人一人がゆっくりとくつろぎ、安心して生活できる機能が重視される。また、個々人への対応がさらに重要となる。集団的な活動は、年中行事などの形で、また、高齢者に負担をかけない仕方で、適宜織り込まれることになろう。

本稿では、前述の第２の段階に当たる、心身の衰えが進む 60 代後半から 80 代前半の高齢者を主な対象とするふれあいサロン等（以下、「ふれあいサロン」とする。）の現状を分析することにより、活動の一層の活性化と普及を図るための課題や方策を明らかにしたい。

2　ふれあいサロン分析の視点

主として、以下のような視点からふれあいサロンについて調査・考察することとした。

第１に、ふれあいサロンの運営を担い、参加者への対応や活動プログラムの立案等に当たる運営スタッフの役割が大きいと思われる。このため、運営スタッフの確保や研修が重要である。また、運営スタッフにはどのような資質が求められているかについての考察が必要であろう。

第２に、参加者を確保する上で、雰囲気や人間関係、活動内容の魅力という要素が大きいと思われる。特に、出不精になりがちな高齢者が進んで参加する気持ちになるためには、これらの要素が欠かせないであろう。この面での配慮や取り組みについて考察する必要がある。

第３に、ふれあいサロンの活動内容には、様々な要素が想定されるが、その中で生涯学習の役割が大きいと思われる。具体的には、生きがいづくりや健康の維持・増進に関する内容が重視されると思われるが、これらを含めて、生涯学習に関する内容が具体的にどのように取り入れられているのかを考察する必要がある。

それとともに、青少年と触れ合う世代間交流の取り組みは、青少年の健全育成に寄与するものである。また、高齢者の生きがいづくりにも寄与するものである。実施しているふれあいサロンはまだ少ないと思われるが、具体的な実施状況を考察し、今後の普及方策を探る必要がある。

第４に、高齢者の参加条件を考慮した、活動の場の確保や参加への支援体制が求められるということである。健康・体力の衰えや身体的な不自由等の高齢者の参加条件を考慮して、身近な活動場所の確保や送迎への支援など、参加への支援体制が求められると思われる。この点についての対応の現状と課題を探る必要がある。

第５に、地域の支援体制や関係者のネットワークが、活動を支える上で大きな役割を果たし得るということである。財政的な支援を含めた地域の支援体制や関係者による人的ネットワークが活動を支える上で大きな役割を果たすと思われる。この点についての現状と課題を探る必要がある。

第６に、地域条件の違いが、ふれあいサロンのあり方に大きな影響を及ぼしていると思われる。したがって、今後の推進方策や支援体制を考える場合も、この地域条件の違いを考慮に入れる必要があろう。

３　ふれあいサロンの現状分析　―２つの市町における調査から―

ふれあいサロンの現状と課題を考察するために、２つの市町（宮崎県国富町、千葉県八千代市）のふれあいサロンの運営スタッフ代表者を対象としたアンケート調査を行った。以下、この調査結果を両市町のふれあいサロンを比較しながら分析する。

なお、国富町は県都宮崎市に隣接しており、葉たばこ、切り干し大根の出荷額は全国１位など、農業が盛んであり、また先端産業も立地している。人口は 21,443 人（2006 年 10 月 1 日）、高齢化率は 24.6%（平成 17 年度国勢調査第一次集計結果）である。八千代市は首都 30 キロ圏に位置し、交通の便、自然環境の良さから首都圏のベッドタウンとして発展してきた。人口は 182,486 人（2006 年 12 月 31 日）、高齢化率は 15.7%である。

（１）調査の概要

ア．調査の目的

ふれあいサロンの現状を調査し分析する

ことにより、ふれあいサロンの一層の活性化と普及を図るための課題や方策を明らかにする。

イ．調査の内容

下記のような側面からふれあいサロンの現状を調査することとした。

① ふれあいサロン設置の経緯

開始した年、開始した主なきっかけ

② 参加者の状況

登録人数、一回当たりの参加人数、参加者の年齢構成、男女の比率、外出や日常生活の動作等に影響のある人の比率、参加者が通う手段・方法

③ ふれあいサロンの運営

運営主体、活動の回数（年間）、1回当たりの活動時間、主な活動場所、活動を支える財政、運営スタッフの現状と役割

④ 活動内容、活動方法

平成17年度以降の活動内容、平成17年度以降の活動方法、活動プログラムの立案で工夫していることや特徴的な活動、今後取り入れていきたい活動

⑤ 地域の方々による支援や関係機関等との連携

支援・協力していただいている地域の方々、支援・協力していただいている地域の関係機関、行政や関係機関等に期待する支援内容

ウ．調査の方法

国富町（宮崎県）の社会福祉協議会の担当者と八千代市（千葉県）の民生委員・児童委員に協力をしていただき、ふれあいサロンの代表者にアンケートを配付した。

エ．調査実施期間

平成18年11月7日(火)～11月30日(木)

オ．調査票の回収状況

配付数は21（国富町15、八千代市6）、回答数は21、有効票数は21である。

（2）ふれあいサロン設置の経緯

ア．開始した年

一番早いサロンは1994～1995年が1サロンである。大方は、2000年以降に設置されており、特に2004～2005年に設置されたサロンが多い。

国富町では、1998～1999年以降に設置されている。

八千代市では、1994～1995年に1サロンが設置された後は、10年ほどの間をおいて2004～2005年以降に設置されている。

イ．開始した主なきっかけ

一番多いきっかけは、「社会福祉協議会の担当者の呼びかけがあったから」（52.4%）であり、次いで「地域の有志の方（々）が自発的に開始した」（19.0%）である。

国富町では、「社会福祉協議会の担当者の呼びかけがあったから」が73.3%で特に多い。

八千代市では、「地域の有志の方（々）が自発的に開始した」（3サロン）と「その他」（3サロン）である。

「その他」の内容は、国富町では「いきいきサロンのモデル地域に指定されたのがきっかけである」(1サロン)、八千代市では「NPO法人ユーアイやちよの地域ネットワーク事業」（2サロン）である。

なお、国富町でふれあいサロンがスタート

したのは、有志の方が地域の高齢者に自宅を開放して、知り合いと一緒に月1回「ちょっとあつまってみようの会」を開催したのがきっかけであるが、その後の全町への広がりには、社会福祉協議会によるモデル事業や担当者の呼びかけが主要な契機となっている。

これに対して、八千代市では、NPO法人ユーアイやちよの呼びかけが、その後、ふれあいサロンが市内に広がっていく契機となっていると思われる。

このように、両市町ではふれあいサロンが広がるきっかけが異なっている。

（3）参加者の状況

ア．登録人数

登録人数が一番少ないサロンは10人未満、一方多いサロンは「40～49」人である。この中で、「10～19」人が45.0%で、特に多い。次いで「20～29」人が25.0%で、合わせて70.0%を占める。

国富町では、「10～19」人が53.3%で、特に多い。次いで「20～29」人が26.7%、合わせて約8割を占める。

八千代市では、「10～19」人から「40～49」人まで、均等に分かれている。

イ．一回当たりの参加人数

「5～9」人から「35～39」人まで、分かれている。この中で、「10～14」人及び「15～19」人がそれぞれ30.0%で、特に多い。10人台は合わせて60.0%を占める。

国富町では、約7割のサロンが10人台である。

八千代市では、10人台（2サロン）と30人台（3サロン）に分かれている。

ウ．参加者の年齢構成

（ア）一番若い方

参加者の年齢構成は、「一番若い方」については60代前半から70代後半まで、広がりがある。中でも、70代前半が52.4%で特に多い。次いで、70代後半及び60代後半である。

国富町では、70代前半が60.0%で特に多い。

八千代市では、60代後半と70代前半が合わせて5サロンであり、国富町と比べて、「一番若い方」の年齢層が低い。

（イ）一番年配の方

「一番年配の方」は70代前半から90代後半まで、広がりがある。中でも、80代後半が特に多く、61.9%を占める。

両市町ともに、80代後半が一番多い。

（ウ）一番人数が多い年齢層

「一番人数が多い年齢層」は70代後半であり、66.7%を占める。次いで70代前半(23.8%)であり、70代は合わせて90.5%である。

国富町では、70代後半が特に多く、80.0%を占める。

八千代市では、70代前半が4サロン、70代後半が2サロンである。

エ．男女の比率

「女性の方が多い」は、90.4%である。他は「ほぼ同数」と「女性のみ」が4.8%である。

国富町では、「ほぼ同数」「女性のみ」がそれぞれ1サロンである。

八千代市では、すべてのサロンが「女性の

方が多い」と答えている。

オ．外出や日常生活の動作等に影響のある人の比率

「健康上の理由で外出や日常生活の動作等に影響のある人の比率」は、「全くいない」から「ほぼ全員」まで、幅がある。この中で、「20%未満」が特に多く、55.0%である。次いで、「20～40%未満」が20.0%であり、「全くいない」を合わせると、「40%未満」が80.0%を占めている。

※ なお、これらの数値については、どの程度をもって「日常生活の動作等に影響がある」と判断するかについて、回答者によって差異があり得るため、参加者の実態を正確に反映しているとは言い切れない面があることをお断りしておきたい。

国富町では、「全くいない」から「ほぼ全員」まで、幅がある。この中で、「20%未満」が、特に多く、50.0%である。

八千代市では、ほとんどが「20%未満」である。

カ．参加者が通う手段・方法

参加者が通う手段・方法（複数回答）は、「歩いて」が特に多く、60.0%である。次いで、「自転車で」と「自家用車を運転して」が35.0%である。徒歩や自転車が多いことは、多くのサロンが通いやすい場所で行われていることを示している。「福祉バス等を利用して」は20.0%、「車いすで」は15.0%である。

国富町では、「歩いて」が特に多く、64.3%である。次いで、「自家用車を運転して」(42.9%)、「自転車で」(28.6%)、「福祉バス等を利用して」(21.4%)、である。

八千代市では、「歩いて」(3サロン)、「自転車で」(3サロン）等の他に、「車いすで」(3サロン)、「路線バスを利用して」(2サロン)、「家族に車で送迎していただいて」(2サロン）など、国富町に比べて多様な手段・方法を利用している。

「その他」として、「シルバーカーを押して」(国富町)、「参加者同士の相乗り」(国富町)、「ボランティアの車で送迎」(八千代市2サロン）などがあげられている。

（4）ふれあいサロンの運営

ア．運営主体

ふれあいサロンの運営主体は、「地域のボランティア」が特に多く、55.6%である。次いで、「老人クラブ」(22.2%)、「社会福祉協議会」(11.1%）である。

国富町では、「地域のボランティア」(38.5%)、と「老人クラブ」(30.8%）が多く、次いで「社会福祉協議会」(15.4%）である。

八千代市では、すべてが「地域のボランティア」である。

イ．活動の回数（年間）

年間の活動回数を類型化すると、「毎週1回程度実施型」、「月2回程度実施型」、「月1回程度実施型」、「年数回実施型」の4つのタイプに分類できる。

この中で、特に多いタイプは「月1回程度実施型」(「10～14回」）で52.4%である。次いで、「毎週1回程度実施型」で、内訳は「40～44回」が14.3%、「45～49回」が9.5%、合わせて23.8%である。「年数回実施型」は、「1～4回」と「5～9回」を合わせて14.3%である。

国富町では、「月 1 回程度実施型」が特に多く、66.7%である。

八千代市では、ほとんどが「毎週 1 回程度実施型」であり、内訳は「40～44 回」が 3 サロン、「45～49 回」が 2 サロンである。

ウ. 1回当たりの活動時間

1回当たりの活動時間は、「1～2 時間未満」から「6～7 時間未満」までの広がりがある。この中で特に多いのは、「2～3 時間未満」と「4～5 時間未満」で、いずれも 38.1%であり、これらを合わせると、「2～5 時間未満」が 76.2%を占める。なお、4 時間以上の場合には、昼食も含めて、午前から午後にかけて活動するものと思われる。

国富町では、「1～2 時間未満」から「5～6 時間未満」までの広がりがある。この中で特に多いのは、「4～5 時間未満」(40.0%) と「2～3 時間未満」(33.0%) であり、合わせて 73.0%を占める。

八千代市では、「2～3 時間未満」が 3 サロン、「4～5 時間未満」が 2 サロンである。

エ. 主な活動場所

主な活動場所は、「公民館」が 38.1%、「その他の公共施設」が 23.8%であり、これらを合わせると、61.9%のサロンが公共施設を主な活動場所としている。「個人の家」は 14.3%である。

国富町では、「公民館」が 46.7%を占め、「その他の公共施設」(33.3%) を合わせると、80.0%のサロンが公共施設を主な活動場所としている。「その他」は、やちよ荘 (2 サロン) である。

八千代市では、「団地の集会所」が 3 サロン、「個人の家」が 2 サロン、「公民館」が 1 サロンである。

オ. 活動を支える財政

(ア) 参加費徴収の有無

「参加費徴収の有無」(複数回答) については、「徴収している」が 75.0%である。内訳は、「各回毎に実費を徴収している」が特に多く、65.0%であり、次いで「年会費を徴収している」が 10.0%である。

国富町では、「徴収している」が 64.3%である。内訳は、「各回毎に実費を徴収している」が特に多く、50.0%であり、次いで「年会費を徴収している」が 14.3%である。

八千代市では、すべてのサロンが「各回毎に実費を徴収している」。

年会費を徴収しているのは国富町のみである。

(イ) 徴収する金額

各回毎に徴収する金額は、100 円 (1 サロン)、200 円 (6 サロン)、300 円 (4 サロン)、500 円 (1 サロン) である。

国富町では、200 円が多く、4 サロンである。

八千代市では、200 円 (2 サロン) と 300 円 (2 サロン) に分かれている。

年会費の金額は、1,000 円が 2 サロンである。

(ウ) 関係機関からの財政的な支援の有無と支援金額

財政的な支援を得ていないところは国富町の 1 サロンのみである。

支援金額は、下記の通りである。なお、複数の機関・団体から支援を受けている場合は、その合計額である。

1～2 万円未満　1（サロン）
2～4 万円未満　8
4～6 万円未満　1
6～8 万円未満　3
8～10 万円未満　0
10～12 万円未満　1
12～14 万円未満　3

（エ）財政的な支援をした機関・団体名

財政的な支援をした機関・団体（複数回答）は、「社会福祉協議会」が特に多く、68.4%である。次いで、自治会（21.1%）、市町村（15.8%）である。

国富町では、支援を受けていると回答したすべてのサロン（13）に対して、「社会福祉協議会」が、次いで自治会が 30.8%（4 サロン）である。

八千代市では、市が 3 サロン、「老人クラブ」と「NPO」が 1 サロン、「その他」（団地管理組合法人）が 1 サロンであり、国富町と支援をした機関・団体が異なっている。

カ．運営スタッフの現状と役割

（ア）運営スタッフの人数

運営スタッフの人数は、「1～4 人」から「20～24 人」まで、広がりがある。この中で、「1～4 人」が特に多く、50.0%である。次いで、「10～14 人」が 25.0%である。

国富町では、「1～4 人」から「10～14 人」までの広がりである。この中で、「1～4 人」が特に多く、80.0%である。

八千代市では、「5～9 人」から「20～24 人」までの広がりであり、国富町と比べて、運営スタッフの人数が多い。この中で、「10～14 人」が一番多く、3 サロンである。

（イ）運営スタッフの構成

運営スタッフに参加している人々（複数回答）で特に多いのは、「個人のボランティア」（80.0%）であり、次いで、「民生委員・児童委員」が 35.0%である。「老人クラブの役員」（25.0%）、「福祉員」（20.0%）などがこれに続いている。

※　なお、「民生委員・児童委員」「老人クラブの役員」等もボランティア精神で運営に関わっているわけで、そういう意味では、すべての運営スタッフは広い意味でのボランティアであり、ふれあいサロンはボランティアによって支えられていると言うことができるであろう。しかし、本稿で「ボランティア」という場合は、「民生委員・児童委員」「老人クラブの役員」と区別している。

国富町では、特に多いのは、「個人のボランティア」（71.4%）であり、次いで、「民生委員・児童委員」と「老人クラブの役員」が 28.6%、「福祉施設」と「日赤奉仕団体のメンバー」が 21.4%である。

八千代市では、すべてのサロンで「個人のボランティア」が参加している。また、「民生委員・児童委員」が 3 サロン、「ボランティア団体・ＮＰＯの役員」が 2 サロンである。「その他」は、ＮＰＯ協力会員である。

（ウ）運営スタッフの相互研さん・研修のための機会

運営スタッフの相互研さん・研修のための機会（複数回答）については、「運営スタッフのミーティングの機会を設けて、意見交換や情報交換を行っている」が特に多く、68.8%である。次いで、「市町村内で行われる交流や研修の機会に参加（派遣）している」

が 43.8%、「先進地の視察を行っている」が 31.3%である。

国富町では、「運営スタッフのミーティングの機会」は 50.0%である。

八千代市では、すべてのサロンが「運営スタッフのミーティングの機会」を実施している。

（エ）企画・運営に当たって留意していること

運営スタッフが企画・運営に当たって留意していること（表１）については、人間関係や雰囲気づくりの面、活動内容面、運営面など、様々な面にわたっている。

まず、人間関係や雰囲気づくりの面では、「参加者が楽しく過ごせるようにする」（85.7%）を筆頭に、「参加者がゆっくりとくつろげるような雰囲気づくりをする」（76.2%）、「参加者相互の友好的な人間関係が深まるようにする」（66.7%）などである。

活動の内容面では、「健康の維持・増進を図る」（76.2%）、「参加者の健康状態等を把握する」（57.1%）など、健康面への配慮が多く見られる。また、「参加者が相互に教え合い、学び合う場をつくる」（42.9%）をはじめとして、「教養や趣味活動のための機会を設ける」（28.6%）、「生活に役立つ知識や情報が得られるようにする」（23.8%）など、生涯学習支援への配慮も見られる。

運営面では、66.7%のサロンが「元気な参加者には、運営への協力をしていただく」と答えている。また、「参加者の要望をプログラムにとり入れるようにする」は 57.1%、「地

表１　企画・運営に当たって、留意していること（複数回答）（市町別）

単位：上段はサロン数、下段は%

	合計	市町	
		国富町	八千代市
参加者がゆっくりとくつろげるような雰囲気づくり	16 76.2	10 66.7	6 100.0
参加者が楽しく過ごせるようにする	18 85.7	12 80.0	6 100.0
参加者相互の友好的な人間関係が深まるようにする	14 66.7	10 66.7	4 66.7
健康の維持・増進を図る	16 76.2	12 80.0	4 66.7
参加者の健康状態等を把握する	12 57.1	9 60.0	3 50.0
生活に役立つ知識や情報が得られるようにする	6 28.6	6 40.0	0 0
教養や趣味活動のための機会を設ける	6 28.6	4 26.7	2 33.3
参加者が相互に教え合い、学び合う場をつくる	9 42.9	5 33.3	4 66.7
参加者一人一人の相談に対応する	3 14.3	2 13.3	1 16.7
参加者の要望をプログラムにとり入れる	12 57.1	8 53.3	4 66.7
元気な参加者には、運営への協力をしていただく	14 66.7	9 60.0	5 83.3
地域の方々や関係機関から、運営への協力・支援をしていただく	11 52.4	7 46.7	4 66.7
その他	3 14.3	0 0	3 50.0

注．比率算出の母数は、合計 21、国富町 15、八千代市 6 である。

域の方々や関係機関から、運営への協力・支援をしていただく」は52.4%であり、半数を超えるサロンが留意している。

国富町では、全体的な傾向と同様の傾向が見られる。特に、人間関係や雰囲気づくりの面の、「参加者が楽しく過ごせるようにする」(80.0%)、「参加者がゆっくりとくつろげるような雰囲気づくりをする」(66.7%)、「参加者相互の友好的な人間関係が深まるようにする」(66.7%) の割合が高い。

八千代市では、人間関係や雰囲気づくりの面の、「参加者がゆっくりとくつろげるような雰囲気づくりをする」及び「参加者が楽しく過ごせるようにする」が全サロン、運営面の、「元気な参加者には、運営への協力をしていただく」が5サロンである。また、「その他」として、「参加者一人一人が何らかの場面で主役になれるように心がける。参加者が出掛けて良かったと思えるように」「出来るだけ自分の事は自分でやってもらい、余分な手助けはしない」などがあげられている。

次に、企画・運営に当たって特に留意していること（複数回答）については、「参加者が楽しく過ごせるようにする」(8サロン) を筆頭に、「参加者がゆっくりとくつろげるような雰囲気づくりをする」(5サロン)、「健康の維持・増進を図る」(3サロン) などがあげられている。

国富町では、「参加者が楽しく過ごせるようにする」(4サロン)、「健康の維持・増進を図る」(3サロン)、「参加者がゆっくりとくつろげるような雰囲気づくりをする」(2サロン) などがあげられている。

八千代市では、人間関係や雰囲気づくりの面の、「参加者がゆっくりとくつろげるような雰囲気づくりをする」(3サロン) と「参加者が楽しく過ごせるようにする」(3サロン) のみがあげられている。

(オ) 運営面で工夫していることと改善を図りたい点

以下、自由回答欄に記入していただいた中から、表2に一部を紹介する。

表2

運営面で工夫していること

- 「居心地の良いサロン」作り、「行ってみろやサロン」作りのために明るい挨拶。(国富町)
- 楽しかった！来月も楽しみと思われるように、笑顔も見られるように工夫している。(国富町)
- みんなの顔と名前を知り、昔の愛称で呼び合えるような仲間作り。(国富町)
- 一人でも多くの参加者に声をかける。(八千代市)
- 楽しい内容にするため意見を聞きながら次の内容を決める。(国富町)
- 毎回最後にお茶の時間をとり、ゆっくりといろんな話をしている。(国富町)
- 茶話会によっておしゃべり時間を長くする。(国富町)
- 食事について（手作りと誕生日のお祝い）(国富町)

(次頁に続く)

・地域で出来ている品物を持ち寄り、地産地消の料理をする工夫をしている。季節の物を使うようにしている。(国富町)
・高齢者の身体機能の衰えに留意し、指・脳・足等を音楽・ボール・遊具等の使用によって楽しみながらの活動をする。(国富町)
・節約（食事や行事で用いる物はできるだけ自宅にあるものを活用）(国富町)
・元気な参加者や得意な物がある参加者にはスタッフの役割をしてもらっている。しかし、誰でもいつでも参加できる様、あまり専門的にならぬようにしている。(八千代市)

運営面で改善を図りたい点

・地域の一人暮らしをしている人や、家の中に引きこもりがちな人を、一人でも外に出して、楽しい日が過ごせるようにしていきたい。(国富町)
・男性会員を増やしたい。(国富町、八千代市)
・高齢者の集まりになっているので、60代、50代の人を仲間に入れたい。男性（リタイヤ組）の元気な人を仲間に入れたい。(国富町)
・元気な方々にはなるべく役職もしていただきたい。(国富町)
・ボランティアの人数をもっと増やしたいと思うが、仕事を持つ若い人には声をかけにくい。(国富町)
・運営ボランティアに男性の参加。(八千代市)
・空き家を提供してくれる人の情報が欲しい。そんなところが方々にあれば、いろいろな居場所をいろいろなところに！と活動を広げたい。(国富町)
・会場が狭いため30人位で満員となる。そのため広い会場が欲しい。(八千代市)

（5）活動内容、活動方法

ア．昨年度以降の活動内容

昨年度以降の活動内容（複数回答）（次頁の表3）で特に多いのは、「健康体操」(100.0%）と「ゲームやレクリエーション」(95.2%）である。

次いで、「手芸等」「昼食会」「行事」が多く、約7割のサロンで実施している。

活動内容を活動の目的に即して分析すると、第1に、気軽に楽しく参加できる活動が重視されていることである。例えば、「健康体操」「ゲームやレクリエーション」「手芸等」「昼食会」などである。

第2に、「健康体操」や「健康診断や健康相談」など、健康の維持・増進に関する活動が多くのサロンで行われていることである。

第3に、生涯学習との関連を見ると、先にあげた「健康体操」「ゲームやレクリエーション」「手芸等」「行事」等の、気軽に楽しく体を動かすような活動と結びついて、「活動の中で、活動を通じて学ぶ営み」として生涯学習が行われている。また、行っているサロンは少ないが、「生活に役立つ講話」(33.3%)、「子供たちとの交流活動等」(23.8%)、「地域の行事や講演会・講座等についての情報提供」(23.8%)、など、生涯学習の支援・推進と直接結びついた多様な取り組みが行われている。

国富町では、約4分の3のサロンが「昼食会」を実施している。また、約7割のサロン

表３　昨年度以降の活動内容（複数回答）（市町別）

単位：上段はサロン数、下段は%

	合 計	市 町	
		国富町	八千代市
ゲームやレクリエーション	20 95.2	14 93.3	6 100.0
趣味活動	2 9.5	0 0	2 33.3
手芸等	15 71.4	9 60.0	6 100.0
健康体操	21 100.0	15 100.0	6 100.0
昼食会	14 66.7	11 73.3	3 50.0
行事	14 66.7	10 66.7	4 66.7
生活に役立つ講話	7 33.3	7 46.7	0 0
子供たちとの交流活動等	5 23.8	4 26.7	1 16.7
健康診断や健康相談	10 47.6	10 66.7	0 0
生活相談	2 9.5	1 6.7	1 16.7
地域の行事や講演会・講座等についての情報提供	5 23.8	1 6.7	4 66.7
その他	3 14.3	2 13.3	1 16.7

注．比率算出の母数は、合計 21、国富町 15、八千代市 6 である。

が「健康診断や健康相談」を実施しており、健康管理を重視していることがうかがえる。

八千代市では、「ゲームやレクリエーション」及び「手芸等」をすべてのサロンで実施しており、楽しく活動するという面を特に重視していることがうかがえる。

なお、活動内容の例として記載された内容は、表４の通りである。（　）内の数字はサロン数、(　)が無い場合は、1 サロンである。

表４

活　動　内　容　の　具　体　例

〈ゲームやレクリエーション〉

カルタ、百人一首、トランプ、絵合わせ、ゲーム、ビンゴゲーム、唱歌・合唱（4）、カラオケ（5）、三味線に合わせて歌う、踊り、わなげ、風船バレー、パター、マジックショー、人間双六

（次頁に続く）

〈趣味活動〉

囲碁（2）、将棋（2）、五目並べ（2）、オセロ、ガーデニング

〈手芸等〉

折り紙（7）、絵手紙（4）、ぬり絵（2）、はり絵、編み物（3）、陶器作り、ぞうきん作り

〈行事〉

新年会（2）、ひなまつり（3）、鯉のぼり作り、七夕（2）、終戦記念日、クリスマス会（3）、食事会（2）、誕生会（2）、サロンオープン○周年記念（2）、春と秋に外でレクリエーション、春と秋は花見、近くの公園で紅葉見物とお茶タイム

〈子どもとの交流活動等〉

二番穂刈、森っ子まつり、保育園児等との交流、お話を聞く会、昔遊び、運動会に招待

〈その他〉

紙芝居、舞踊を見る

イ．昨年度以降の活動方法

昨年度以降の活動方法（表５）は、「全員が一緒に取り組む活動を中心として、その中に、参加者の希望に応じて小グループに分かれる活動等を取り入れている」（55.6%）が特に多い。次いで、「参加者の希望に応じて小グループに分かれる活動を中心として、その中に、全員が一緒に取り組む活動等を取り入れている」（27.8%）であり、多くのサロンが小グループ活動を取り入れている。

国富町では、小グループ活動を取り入れているサロンが多い。中でも、「全員が一緒に取り組む活動を中心＋小グループ活動等」が多い。

八千代市では、どのサロンでも小グループ活動を取り入れている。

表５　昨年度以降の活動方法（市町別）

単位：上段はサロン数、下段は%

	合 計	市 町	
		国富町	八千代市
全員が一緒に取り組む	3 16.7	3 25.0	0 0
全員が一緒の活動を中心＋　小グループ活動等	10 55.6	7 58.3	3 50.0
小グループ活動を中心＋　全員一緒の活動	5 27.8	2 16.7	3 50.0

注．比率算出の母数は、合計 18、国富町 12、八千代市 6 である。

ウ．活動プログラムの立案で工夫していることと今後取り入れたい活動

「活動プログラムの立案で工夫していることや特徴的な活動」及び「今後取り入れていきたい活動」について、自由回答欄に記入していただいた中から、表５に一部を紹介する。

表６

活動プログラムの立案で工夫していることや特徴的な活動

［企画・立案の方法について］

・皆が年配の方なのでその方達の体力に合った活動をしていきたいと心がけています。（国富町）

・楽しいプログラムを組む事や、出席しやすい雰囲気作りを工夫している。（国富町）

・してあげるサロン型から自分たちから活動し、動く、作るサロンへ。（国富町）

・スタッフがリードしているプログラム以外にゲストの中で得意な物がある方を中心にプログラムの輪を広げている。（八千代市）

［プログラムの内容について］

・おしゃべりが生き心地の良いサロンになるように。おしゃべりの時間作り。（国富町）

・70歳後半の方が多いので、健康面に重点を置く内容とする。（国富町）

・毎朝元気体操を取り入れている。（八千代市）

・口と手を動かして作品を作りたい人が多いので、手芸が中心である。（全くそのようなことをせずおしゃべりだけをしたい人もいるので目下検討中）（八千代市）

・正月の新年会で茶道の手前と作法を行ってる。（国富町）

・年に２回野外に出る事。（花見、グラウンドゴルフ）（国富町）

・年１回は温泉に行くようにしている。（国富町）

今後取り入れていきたい活動

・簡単な料理を皆で作って、食べてすごしたい。（国富町）

・今後はガーデニングなどを取り入れて行きたいと思っています。（国富町）

・どうしても女性が中心で男性が参加しても長続きしない傾向が強いので、囲碁や将棋以外にも楽しめるプログラムを作りたい。そのためにも男性スタッフを増やしたい。（八千代市）

・お芝居もやってみたい。参加者にも役についてもらってやりたい。（八千代市）

・子ども達との交流。子ども、親、若者、高齢者が気軽におしゃべりを交わし、仲間という意識作り。イベント等一時的ではなく、子ども会と壮年部と高齢者部が仲間となれるような活動の場作り。（国富町）

・参加者全員（当市内でのふれあいサロン合同）でのバス研修が実現出来ないか。（八千代市）

・他のグループとの交流がやりたい（国富町）

（6）地域の方々による支援や関係機関等との連携

ア．支援・協力していただいている地域の方々

支援・協力していただいている地域の方々（複数回答）として、特に多いのは保健師であり、69.2%を占める。次いで、レクリエーション指導者が 46.2%、看護師が 15.4%である。

国富町では、多くのサロンが保健師（75.4%）をはじめとして、地域の方々による支援・協力を得て運営している。

これに対して、八千代市では、1サロンがレクリエーション指導者をあげているだけであり、地域の方々による支援・協力をほとんど得ることなしに運営している。

「その他」として、音楽奏者ボランティア、交通指導員、個人のボランティア（以上、国富町）、地区民生委員（八千代市）などがあげられている。

イ．支援・協力していただいている地域の機関・団体

支援・協力していただいている地域の機関・団体（複数回答）は、社会福祉協議会が特に多く、75.0%である。

次いで、ＮＰＯ・ボランティア団体（25.0%）、保健所（20.0%）、地域包括支援センター（20.0%）などである。

国富町では、すべてのサロンが社会福祉協議会をあげている。次いで、保健所（28.6%）、老人クラブ（21.4%）、公民館（21.4%）である。

これに対して、八千代市では、ＮＰＯ・ボランティア団体が多い。この違いは、両市町におけるサロン設置の経緯の違いが影響していると思われる。

ウ．行政や関係機関等に期待する支援内容

行政や関係機関等に期待する支援内容（新たに期待することだけでなく、これまで行われていたことを継続する期待も含む）（次頁の表７）として比較的多いのは、「活動への財政的な支援を行う（増やす）こと」（57.9%）、「活動のための場を提供すること」（57.9%）を筆頭に、「運転ボランティアなど、参加を支援する人々を確保すること」（47.4%）、「運営スタッフの研修・情報交換の場を提供したり、研修活動を支援すること」（42.1%）などである。他の項目についても、おおむね30%台のサロンが期待している。

国富町では、「活動への財政的な支援を行う（増やす）こと」（61.5%）、「活動の進め方等について気軽に相談に応じたり、情報提供をすること」（53.8%）、「運営スタッフの研修・情報交換の場を提供したり、研修活動を支援すること」（53.8%）などが多く、他の項目についても、おおむね30～40%台のサロンが期待している。

八千代市では、「活動のための場を提供すること」「運転ボランティアなど、参加を支援する人々を確保すること」「活動への財政的な支援を行う（増やす）こと」が比較的多い。具体的に記述された内容では、「会場が狭いため 30 人位で満員となる。そのため広い会場が欲しい。」「公民館が月２回しか使用できないため、自治会館を月２回使用している。スタッフ面と使用場所が違うため、開催が水・木と変則的になっている。」など、広い会場や公的な施設利用への期待が出されている。

表７　行政や関係機関等に期待する支援内容（複数回答）（市町別）

単位：上段はサロン数、下段は％

	合 計	市 町	
		国富町	八千代市
活動への財政的な支援を行う（増やす）	11 57.9	8 61.5	3 50.0
活動のための場を提供する	11 57.9	5 38.5	6 100.0
参加者を増やすための広報活動を支援・推進する	6 31.6	5 38.5	1 16.7
福祉バスなどの運行により、参加しやすいように援助する	7 36.8	6 46.2	1 16.7
運転ボランティアなど、参加を支援する人々を確保する	9 47.4	4 30.8	5 83.3
活動の進め方等について気軽に相談に応じたり、情報提供をする	7 36.8	7 53.8	0 0
指導者など、地域の人材についての情報提供をすること	3 15.8	2 15.4	1 16.7
県内や国内の進んだ取り組みの事例について、情報提供をする	7 36.8	6 46.2	1 16.7
運営スタッフの研修・情報交換の場を提供したり、研修活動を支援する	8 42.1	7 53.8	1 16.7
市町村内の関係機関・団体との連携を進めて、総合的な支援を行う	6 31.6	5 38.5	1 16.7

注．比率算出の母数は、合計 19、国富町 13、八千代市 6 である。

４　ふれあいサロン推進のための課題について

このたびの調査では、県都に隣接し、農業が盛んな町（国富町）と首都圏のベッドタウンとして発展してきた都市（八千代市）という異なった地域性を有する市町のふれあいサロンを対象とした。この地域性の違いは、例えば、ふれあいサロンの開設の経緯において、社会福祉協議会が積極的な役割を果たしている国富町とＮＰＯが積極的な役割を果たしている八千代市との違いをはじめとして、運営面、活動の内容・方法面等、様々な面での両市町のサロンの違いに影響を与えていると思われる。

一方で、下記のような共通点も見られる。

① サロンの開設と運営に当たって、それを支援する社会福祉協議会、ＮＰＯ等が各サロンの独自性や自主性を尊重していること。

② 有志のメンバーが運営スタッフとしてボランティア精神により運営を支えていること。

③ 活動を推進する上で、運営スタッフの役割が大きいこと。

④ 公的な助成が、活動を支える上で、重要な役割を果たしていること。

これらの要因は、今後各地における活動の普及と発展を促す要因を研究する上で、参考

となるであろう。その上で、このたびの調査で浮き彫りになった具体的な課題と方策を整理して示そう。

（1）ふれあいサロンの運営について

ア．参加層を広げることについて

参加層を広げることについては、次のような課題があげられる。

① 男性会員を増やしたいという意向がいくつかのサロンから出された。このための有効な方策を見出す必要があろう。

② 「高齢者の集まりになっているので、60代、50代の人を仲間に入れたい。男性（リタイヤ組）の元気な人を仲間に入れたい。」という意向も出された。このように、若い年齢層を受け入れていくことも積極的な方向と思われる。

③ 車いすの利用者を受け入れているサロンもあるが、今後このような取り組みを広げることが求められよう。そのためには、参加条件の整備も必要となろう。

以上のような課題を実現する上で、老人クラブとの連携や地域の高齢者の実状を良く把握している民生委員・児童委員やホームヘルパー等との連携をすすめることも有効であろう。

イ．運営スタッフの確保と研修について

（ア）運営スタッフの確保について

「2　ふれあいサロン分析の視点」で「ふれあいサロンの運営を担い、参加者への対応や活動プログラムの立案等に当たる運営スタッフの役割が大きいと思われる。」と指摘したが、それは、企画・運営に当たって留意していることや活動プログラムの立案や運営面で創意工夫しながら取り組んでいる事例などにおいて具体的に示された。

運営スタッフの人数については、国富町は5人未満が多いのに対して、八千代市はすべてのサロンが10人以上である。これは、地域性の違いが大きく影響していると推察される。この人数の違いが、活動回数にも反映しており、国富町は「月1回程度実施型」が多いのに対して、八千代市は「週1回程度実施型」が多い。今後、スタッフの負担を軽減し、活動内容の充実を図るためには、出来るだけ多くのスタッフの確保が望ましいと思われる。

スタッフの確保の方向として、「元気な参加者や得意な物がある参加者にはスタッフの役割をしてもらっている」（八千代市）のケースのように、参加者の中からスタッフを見出すことは、参加者の参加意識を高める意味でも、有意義であろう。

また、特に50～60代のスタッフを迎えるようにすること、また男性の参加者を増やすためにも、男性スタッフを確保することが求められよう。団塊の世代の人々をスタッフとして迎え入れることも時宜にあった取り組みと思われる。

（イ）運営スタッフの相互研さん・研修の機会について

スタッフの相互研さん・研修の機会については、八千代市のケースに示されるように、スタッフの人数が多いところでは、相互の意思疎通を図り、役割分担と連携を図る上で、ミーティングの役割が重要と思われる。信頼感のある人間関係のもとで、率直で建設的な意見交換がなされるならば、ミーティングは最も有意義な相互研さんの機会となりうる

であろう。

市町村内外での交流や研修の機会に参加することも、スタッフの力量を高めるとともに、人的ネットワークを形成する上で有意義と思われる。現状は「市町村内で行われる交流や研修の機会に参加している」サロンが約半数である。身近で行われる市町村内の機会は参加しやすいという意味でも、今後、関係機関・団体と連携してこのような機会を設け、参加者をひろげることが求められよう。

一方、市町村外の交流や研修の機会への参加はゼロであった。今後、先進的な活動から学ぶ機会を増やすためにも、広域的な交流・研修の機会を設けることが有意義であろう。また、数は少ないが、先進地の視察を行っているサロンもある。先進地の視察も活動発展のための良き刺激剤になり得るものである。今後、広域的交流や先進地の視察を推進するために、例えば、市町村内のサロンが連携して代表者を派遣するなど、参加を保障するための措置について検討することも必要と思われる。

スタッフの企画力及び生涯学習機能を高めるためには、教員や社会教育主事の経験者、青少年団体・社会教育関係団体のリーダー（経験者）などにスタッフに加わっていただくことも有効であろう。今後生涯学習のコーディネーターが各地で養成されれば、大きな力になるであろう。

ウ．参加者の運営への協力や自主運営の促進について

「企画・運営に当たって留意していること」（3（4））の中で、約7割のサロンが「元気な参加者には、運営への協力をしていただくこと」と答えている。参加者の自立や社会参加を支援するという視点から、今後このような取り組みを進めることは有意義であろう。

また、「してあげるサロン型から自分たちから活動し、動く、作るサロンへ」（国富町）、「参加者一人一人が何らかの場面で主役になれるように心がける」（八千代市）という記述があった。国富町のサロンでは、参加者で分担して昼食づくりを行っている。このように、参加者一人一人が主役となる参画型のサロンを目指し、そのための具体的な場面を創出することも積極的な方向といえよう。

（2）活動内容・方法の改善・充実について

ア．活動内容の改善・充実について

活動内容の現状については、気軽に楽しく参加できる活動が重視されていること、健康の維持・増進に関する活動が多くのサロンで行われていることなどの特徴が浮き彫りになった。こうした活動は、今後とも重視し、さらに充実を図っていくことが求められよう。

生涯学習との関連を見ると、先にあげた「健康体操」「ゲームやレクリエーション」など、「活動の中で、活動を通じて学ぶ営み」が広く行われていることが明らかになった。また、行っているサロンは少ないが、「生活に役立つ講話」など、生涯学習の支援・推進と直接結びついた多様な取り組みも行われている。今後は、生涯学習を支援・推進するという視点からこれらの活動を広げ、発展させることが期待される。

「今後取り入れていきたい活動」の中で、「男性が参加しても長続きしない傾向が強いので、男性が楽しめるプログラムを作りた

い。このためにも、男性スタッフを増やしたい。」という記述があった。これは、男性の参加を増やすための有効な方策と思われる。

また、「子供達との交流」を取り入れていきたいという記述もあった。その際、「子ども会と壮年部と高齢者部が仲間となれるような活動の場作り」を図るというような世代間交流の視点も重要と思われる。「2　ふれあいサロン分析の視点」で指摘したように、青少年と触れ合う世代間交流の取り組みは、青少年の健全育成に寄与するとともに、高齢者の存在感を高め、高齢者の生きがいづくりにも寄与するものである。まだ実施しているサロンは少ないが、取り組みの広がりを期待したい。

イ．活動方法の改善・充実について

活動方法については、「健康体操」「ゲームやレクリエーション」など、気軽に体を動かしながら、共に楽しく学ぶという方法が多く取り入れられている。この面では、活動にバラエティをもたせることが、サロンの魅力にもつながると思われる。このため、地域のスポーツ・レクリエーション指導者の協力を得ることも有効であろう。

また、全員一緒の活動と小グループ活動を組み合わるサロンが多い。小グループ活動の取り入れ方としては、共通の課題について小グループに分かれて取り組む方法や参加者の希望に応じて分ける方法などが考えられる。小グループ活動は、適切に取り入れられるならば、参加者の参加意識を高め、対話・交流を深め、相互に教え合い、学び合う関係を生み出すなどの効果が期待される。その際、人前で話すことに抵抗感を感ずる人に対して配慮するなど、慎重な対応が求められよう。

（3）活動への財政的支援や参加条件の整備について

次に、活動への財政的支援や参加条件の整備については、「行政や関係機関等に期待する支援内容」（新たに期待することだけでなく、これまで行われていたことを継続する期待も含む）についてたずねた中で、「活動への財政的な支援を行う（増やす）こと」が特に多い。この理由は、高齢者に出来るだけ経済的な負担をかけないことが高齢者の参加を促進するための重要な条件であることによるものと思われる。したがって、関係機関による財政的な支援を確保することが課題となろう。

財政的な支援に次いで、「活動のための場を提供すること」への要望が多い。国富町は、約8割のサロンが公民館等の公共施設を主な活動場所としているために、このような要望は少ない。これに対して、八千代市は「団地の集会所」と「個人の家」が主な活動場所であるため、特に個人の家の場合、手狭なことなどからこのような要望が出されている。今後は学校の余裕教室をふれあいサロンなど、高齢者のために積極的に開放することが期待される。これを、世代間交流の場として活用するならば、子どもの教育のためにも有意義であろう。

また、4割を超えるサロンが「運転ボランティアなど、参加を支援する人々を確保すること」を求め、「福祉バスなどの運行により、参加しやすいように援助すること」も4割に近い。身体的に不自由な方々の参加を支援するためにも、このような条件整備が求められよう。なお、車いすの利用者が参加するサロンも見られる。今後参加を促進するためには、

障害者用トイレの設置などの条件整備も求められよう。

（4）地域の方々や関係機関・団体との連携の推進について

今後スタッフに期待される重要な役割の一つとして、コーディネーターとしての役割があげられよう。地域の人的な力や資源等を運営に生かしていくことであり、例えば、地域の方々や関係機関・団体との連携を推進することがこれにあたる。

この調査で、支援・協力していただいている地域の方々として特に多いのは保健師、次いで、レクリエーション指導者、看護師などである。また、支援・協力していただいている地域の機関・団体は、社会福祉協議会が特に多く、次いで、ＮＰＯ・ボランティア団体、保健所、地域包括支援センターなどである。

今後、サロンの指導や運営に、より多くの地域の方々や地域の機関・団体の支援・協力を得るようにすることも、重要な課題と思われる。

おわりに

以上、2つの市町におけるふれあいサロンの調査を手がかりとして、ふれあいサロンの現状と課題に関する考察を行った。この考察は、全国各地で行われているふれあいサロンの一端を示すものである。今後は、さらに多くのふれあいサロンの調査と先進的なサロンに対するケーススタディを行う必要がある。その際、地域性の違い、運営主体の違いに応じた分析が必要と考える。また、生涯学習機能を高めるための方策、運営スタッフの役割・確保と研修のあり方など、本研究における問題意識に沿った考察をさらに深めるとともに、中高年期における居場所づくりという構想の中に、ふれあいサロンを位置づけていきたい。

おわりに、このたび2市町における調査に当たり、調査票の設計から実施にいたるまで、国富町社会福祉協議会の吉野　勉事務局長、武中勢津訪問相談員、職員の皆様及び八千代市で民生委員・児童委員をしている私の妻にお世話になりました。また、ふれあいサロンの代表者・スタッフの皆様にていねいなご回答をいただきました。ここに、改めて御礼申し上げます。

注

1）地域の中の身近な所で高齢者に学習・社会参加機会を提供する必要性については、既に別の論文で指摘した。（上條秀元「高齢者の学習・社会参加支援に関する研究－その基礎的考察－」〈宮崎大学生涯学習教育研究センター研究紀要『生涯学習研究』第9号、2004年3月、6～7頁〉）

2）福留　強氏は「中高年期にさしかかった人々が、自らを新しく、自らの力、心身のレベルに応じて、何とか自分をよりよく創り変えようとする意思を持った生き方を含む総称」として「創年」という概念を創出し、地域に創年のたまり場をつくることを提唱している。（「創年の意義と創年活動」『創年学－中高年の新しい生き方の創造―』聖徳大学生涯学習研究所、2005年8月、6～7頁、30～34頁）

（2007年1月31日受稿、2007年3月15日受理）